

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	今後、もっと役立つことはないか考えてみたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	スタッフ全員が意識をもって取り組めるよう、改めて学習したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	理解・納得してもらえるように、話せるよう努力している	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	居住者の訴えに、耳を傾けるように、職員に徹底している。居住者直接か、職員から訴えを聞いた時、苦情受付書に記載し、極力すぐに対処できるようにしている	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月1回、家族へ近況報告の手紙を写真を同封し、出している。また、病状の変化等については、その都度連絡し、報告している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族来所時に、色々話をしている。その中で、ご意見をお聞きし、反映しようとしている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月2回、会議を開催し、職員の意見や提案を議論した後、取り入れたものについては、実行にうつせるように、職員全員に周知している。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	居住者の通院、家族のお見舞い、買い物の要望及び早朝の入浴の希望に合わせて、職員体制の工夫をしている。	○ 入浴に拒否がちな居住者について、夜に入ってもらえない時は、早朝入浴ができるように配慮している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年4回開催しているパーティ時やそれが無い時は「おやつ」時に、居住者にお知らせをし、居住者から記念品を贈呈して頂いたりして、納得していただいた。今まで、あまりその後に影響はないように思われる。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、定期的に研修の計画を入れている。少しでも研修に参加できるようにしているが、ローテの都合でなかなか困難な面も多い。管理者としては、月の2回目の会議の時に、看護師より、認知症についての研修を行っている。また、介護についてのビデオを観れるように定期的に借りている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市内のグループホームネットワークに入会し、研修会や懇親会に参加している。また、最近同じ区内のグループホーム連絡会を立ち上げ、見学会を実施していく予定。また、他区のグループホームから、実習で、2ホームの方が来られた。来年は、こちらから、職員が実習に参加させていただきたいと考えている。	○	他のホームの実習に参加したのは、管理者のみなので、今後他の職員も行いたい。来年、同区内のホームの見学会を1月からスタッフ参加で開始。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間がうまく取れるように配慮している。また、個人的な悩みがある場合、職員が直接スーパーバイザーに相談できるように、配慮している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格の取得を勧めたり、参考文献の紹介、ビデオの紹介等おこなっている。	○	まだまだ、日常の業務に追われている面があり、向上心の触発ができていないかと言えば疑問である。看護師の研修を通じて意欲的に学習をしてもらいたいと思っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	その方によるというのが実状。筋書き通りにはなかなか認知症をもっておられるが故にいかない場合が多い。家族と相談し、入居までに何回か訪問し、顔なじみになれるよう努めている。家の雰囲気を知り、生活習慣や嗜好を少しでも理解できるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家と一緒に訪問して話し合ったり、来所してもらって話を聞いたりしながら、極力沢山の情報及びご家族の気持ちを知れるようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの話を聞き、また、ケアマネからの情報を受け、「今」どうすることが良いのかを共に探るようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用のための体験を数回入れている。人によるが、始めは、おやつ時に来所。次に朝から数時間で、昼食を一緒にし、その後、一泊体験を行い、人によっては数回試みて馴染んでもらい入居にいたるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護は、双方向がベストなので、居住者から様々なことを学んでいる。そのことを他の職員に語り、職員も周知している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	そのことが、一番のポイントと考えている。居住者の家族との連携のため、手紙や電話、来訪時を通し、居住者の近況を楽しかったこと、大変だったことを含め話している。	○	すべての居住者家族に対し、左記のようにしたいと思っているが、なかなか来所が困難な家族があり、まだまだ一方的になっているように思われる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	反目のある家族の関係をよりよくするのは、困難だが、年齢を重ねることで、その反目が少し和らいできているように思われる。家族や親戚の方の来所時の写真を拡大して貼り、家族はとても「お母さんを大事に思っておられる」との話を繰り返し話すようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人間関係の継続の大切さを感じている。ある方の息子さんが入院をされているので、2～3ヶ月に1回、お見舞いと自宅訪問し、愛犬との交流を図っている。また、地元に住んでおられた方には、〈ふれあい喫茶〉の参加・買い物同行で、知り合いとの出会い等を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	有難いことに、空間的にあまり広くないので、居住者同士のかかわりは濃厚。それ故、トラブルは起き易いが、職員が中に入ったり、声かけしたりして平安を保てるように努力している最中である。	○	静かにひとりでいたい方には、居室でゆっくりしてもらっている。しかし、他の方を拒否しているわけではなく、ひとりの時間を楽しんでおられる時もあるので、居住者の気持ち優先でおこなっている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居住者が退所され、特養に入居された後、時々居住者とともに尋ねたりしていた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	極力、希望・意向に添えるようにしている。「温泉にいきたい」「洋服が買いたい」「どこかにいきたい」「めざしが食べたい」等居住者が言われたことや、「サリー・メリー(犬)に会いたい」等の要望を聞きプランに入れて、実行するようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは、それまでのその方の文化をすることになる。その方の文化をすることが、今後のケアを考えるのに重要なことだと考える。今の環境はその方にとってどのように映っているのかを知ることになると思う。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族から、居住者の過去にされていた仕事や習い事や趣味、興味等をお聞きしたり、色々な家事に挑戦してもらって、一日の中で居住者にしてもらう作業に入れている。健康管理を主治医と連携して行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居住者個人の認知レベルに合わせて、居住者がまだ十分理解できる方については、その方と話し合い、希望・要望等をお聞きしている。家族としか話し合えない方は、家族来所時に、様々な要望を聞くようにしている。看護師の説明と家族の意見が必要な時は、その場を設定し、プランにいれている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	突然、ADLの低下があり、プラン変更が必要な場合は、家族にも説明し、プランの変更をすみやかにしている。ターミナルに入れば、特にその対応が必要と考える。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	特に行っていない。	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		運営推進会議に必ず出席いただき、居住者状況を見て頂いて、意見を伺っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制はきちんとできているので、週2回の往診及び緊急時の往診体制はできている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は内科医ではあるが、かなり認知症にも詳しく必要な時には、精神科医との連携を取り、診断・治療をしてくれている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	万全の体制がとれている。訪問看護ステーションの看護師との連携は、特によくとれている。居住者の体調不良には、すぐ来所し、対応。主治医との連携もとれている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	前に居住者が入院していた時は、病院関係者といつも連携を取り、退院をすすめた。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、看護師、管理者との話し合いを取り、終末期の迎え方について話し合いをとっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	昨年、始めてホーム内で<看取り>をおこなった。身寄りのない方だったので、ケースワーカーと連携を取り、通夜・葬儀まですべて行った。運営推進会議で、「ターミナルケアについて」の話し合いを取り、家族も含めて話し合った。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からグループホームへの住み替えについては、リロケーションダメージを少なくするために、自宅に同い、極力自宅の部屋の雰囲気近づけるよう、私物をたくさんもってきてもらえるように努めている。ホームから入院の場合は、なかなか私物を持っていけない状況だった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<自尊心を傷つけない><自信をなくすような言葉かけをしない>等職員に周知している。	○	例えば、居住者が、「私 薬を飲んだかなあ？」と言われた時は、「飲まれました」と答え、「飲んでない」と言われた時は、「もうしわけありません」と言って、ラムネをひとつお水と一緒に渡すこと等居住者にとってストレスにならないように気をつけようと話している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	折あるごとに、希望を尋ねるようにしている。また、職員が決めてしまうことがないようにし、選択の機会を持つようにしている。沢山の中から選べない時は、3つや2つに絞ってたずねたりしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「行きたいところ」「したいこと」「食べたいもの」等の声かけをおこなっている。その日にできない時は、「○/○にやりましょう」等具体的に日を決めたりしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院に出かけて、好きな髪型・髪染めにしてもらっている。美容院では無理な方は、美容師に来所してもらい、カットや髪染めをしている。洋服の購入や化粧品等の購入は、その都度居住者の意向に添って行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	入浴拒否気味の方については、朝に入ってもらえるような体制をとれるようにしている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、管理者の方で管理しているが、2人の方には財布にお金を入れてもっていただき、美容院へでかけた時とかは、自分で支払ってもらっている。金銭意識のある方については、洋服購入時は、財布にお金を入れていって、支払ってもらえるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調をみて、また、その方の希望によって、極力散歩・外出ができるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回は、居住者の希望もあり、「温泉旅行」に出かけている。今年から、ビデオを撮っているので、帰所後も、その時のビデオを観て楽しませている。また、家族との外食・外泊の支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字を書くのが、かなり厳しい方が多く、まだ書ける方でも拒否があったりするので、暑中見舞いや年賀状だけは、名前を書いてもらい家族・親戚にだしている。お孫さんに「写真付きの電話番号（話している内に誰と話しているのかわからなくなるので）」を作成して、時々電話を入れてもらっている。しかし、電話の音が聞こえにくい方が多く困難になってきている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居住者家族・前に住んでいたご近所の方・習い事を一緒にしていた時の方等も気軽に来所してもらっています。来所された時は、ゆっくり歓談できるように、場所を作り、湯茶の接待をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつも意識をもって、話し合い取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の方と看護師・管理者との話し合いをすすめている。血液検査結果に基づき、主治医の所見と認知症の状態等について語り、ホームでの自然な居住者の状態に添ったケア方針の理解と納得をしていただけるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	居住者の体調の変化に対して、意識をもつようにいつも職員に話している。変化があった場合は、すぐに管理者→訪問看護ステーションの看護師と連携し、来所して診てもらっている。その上、主治医と連携している。主治医からの所見は、すぐに全職員に周知するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての説明を主治医から管理者が聞き、職員に周知している。日常の個人日誌にも服薬状況一覧を入れている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	問題行動の中心が便秘であることを知り、日々確認を行っている。水分補給状態や柔便剤使用の調整や散歩・運動・食物についての工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	2回/月、歯科の往診をしてもらい、アドバイスを受けている。	○	口腔ケアを毎食後とまではいっていないので、極力できるようにしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、1日1500ml以上摂れるように「水分チェック表」でチェックしながら、様々な飲み物を工夫して出している。人に応じて食べる量がちがうので、その人に合わせた量にしている。楽しんで食事をしてもらえるように工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	取り決めを作っている。また、その都度、看護師からアドバイスを受け予防を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理は日々行っている。賞味期限等のチェックを必ず行い、新鮮な食材を使用できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの看板をかけ、花の水遣りや植木の手入れをいつも居住者と行っている。季節の植木を植え、花好きな方の楽しみな仕事にしている。壁掛けを季節によって替えたり、毎月花瓶の造花を居住者に替えてもらったりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住者によって、花を活けてもらい、共有スペースに飾っている。壁掛けパネルを毎月居住者に作成してもらい変化をもたせている。大きなクリスマスツリーを飾ったり、正月の飾り付け等その季節の行事にあわせて、タペストリーを替えたり、壁の写真を張り替えたりして楽しんでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	籐のつい立を利用して、他の人の視線を気にしなくても良い空間をつくっている。居住者は、皆とソファでテレビを見て話したり、テーブルで、紙工作の作業をしたり、居室で音楽を聞いたり、ひとりで外を見ながらお茶を飲んだり自由に選んでくつろいでもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

<季節感のある生活>毎月、居住者にパネル1枚の壁掛けを作成してもらっている。その月の季節感溢れる風物的なものを創造し、部屋の空気の変化を味わってもらえるようにしている。玄関等に季節感のある花々を植え、水遣りをしながら、花の美しさを感じてもらったり、元生け花をされていた方に、一緒に花屋にでかけ花を選び活けてもらっている。背筋を伸ばし凛々しい顔つきで、鉢をいれられる。菖蒲湯や柚子湯を楽しんだり、ご自分の花を育てる喜びを持つ方には、居室のベランダに植木を置いている。<医療連携>訪問看護の看護師・主治医との連携がよくとれているので、居住者のちょっとした変化も報告し、アドバイスを受けることができています。また、法人のスーパーバイザーとの連携がよくとれているので、居住者状況及び職員状況を話し、アドバイスをもらっている。<家族交流>家族に対する発信を心掛けているので、家族状況をよくつかむことができていると思っている。<会話の豊富な雰囲気>居住者同士、居住者と職員等会話がが多い。